



# 助産師

淡路  
Awaji



# 鍛冶職人

摂津  
Settsu



播磨  
Harima



# デザイナー

2050年の兵庫の未来を描く『ひょうごビジョン2050』。  
今回は、兵庫の各地で暮らし、働き、続けてきた人たちの  
「言葉」と「実感」を通して、これからの兵庫の姿を見つめていきます。  
一人ひとりの声の先に、未来へのヒントがあります。

# 漫画家

但馬  
Tajima



# 料理人

丹波  
Tamba



# 続けてきた人たちの、言葉。

強さは、最初からあったわけじゃない。  
正解が分からない日も、辞めなくなった瞬間も、それでも続けてきた時間が、言葉になって残っている。

## 料理人



贈にも一筋一筋の個性がある。それを活かし、食に感謝して美味しく食べる。古いものは修理して、大切に使う。温かいとはそういうこと。

捨てる命を、美味しくする。

縁と縁が重なって、辞められなくなった。



## 鍛冶職人

様々な線に選ばれて包丁作りを続けていく。技術を高めながら伝統を継いできてくれた親方、またその師匠。さらにその先の先人のためにも伝統を繋いでいく。

はだかの上で、平等。

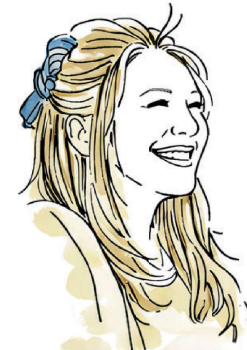
## 漫画家



扉書きも立場も読者捨てで語り合える距離感。国内外のアートフェストも、ママ友も。同じ海に泳がり、同じ目標で言葉を交わす。

## 助産師

娘が子を育てるのは、どちらの産命にも関わる責重でやりがいのあること。抱っこしている親子に子育ての楽しさを伝え、次の世代に繋いでいきたい。



正解がないから、地域で見守る。

いつからでも挑戦できる。

## デザイナー

高い壁があっても、何歳であっても、挑戦は自分次第。出金いながら好きなことを一生懸命にやり、必ず扉は開けていく。

助産師 / 一般社団法人 ファミリーケアセンター MOM 代表理事  
岡垣 裕美さん

愛知県出身、家族の転勤で24年前に淡路島へ。助産師・看護師・保育士資格を有し、病院・市役所勤務を経て産後ケア特化の助産院を開院。中学・高校で思春期教育の特別授業を担当。看護学校でも教える。



暮らしの継承「淡路」

### 気づき、動き出す力になる

中学生の頃、産まれてきた命に最初に触れることに感動し、助産師を目指すようになった岡垣さん。最初に働いた大阪の総合病院では年間約900件のお産に立ち会い、毎日泣くほど感動していたといいます。しかし、それ以上に寂しかったのは、育児に不安を抱えるお母さんの姿。病院では話す時間もなく、地域に帰ってからの生活をサポートしたいと思うようになったそうです。

その後、淡路島に移住した岡垣さんは、洲本市役所で新生児訪問事業に携わります。働きながら15年前の産後ケアの経験が、必要に応じて役所にもつなぐこと、産後ケアの必要性を国が認めるようになり、島内で受け皿の整備が進められたり、上司や仲間との連携もあり、2019年に立ち上げたのが助産院MOMです。市役所にも、夜間や休日など本当に助けを求められるタイプ

ミソクで対応できないことも多く、もどかしさを感じていました。時間や回数制限がない場所で、納得いくまでサポートしたいと独立を決定しました。分娩を扱わず、産後ケア子育て支援に特化した助産院は、淡路島では初の試みでした。

### ひとりにしない、それが支えるということ

開院後、印象的だったのは、遠きながら相談に来てくれたお母さん。結婚で来島し、知り合いもおらず、初めての育児に途方に暮れていたそうです。離乳食作りを悩んでいたため、市販のフードで大丈夫だと伝え、お母さんが3歳になった今でも遅れます。の動きや咀嚼能力など、身体発達を細やかにチェックしながら、お母さんと対話を進めます。今は情報が手に入りやすく、この年齢ならこれができるはずと判断しがちでも、性格や発達は一人的で、通うもの。まようだけでええ通うので、市自身を見守ってあげることが何より大切ですね。

対応するのは岡垣さんを中心とした専門家たち。多職種連携を掲げ、看護師、助産師、作業療法士といった専門家と契約し、必要に応じて市役所にもつなぐほか、医師や保健師、管理栄養士、社会福祉士とも連携します。指導する立場だからこそ、科学的な最新の情報に常に触れられるよう勉強している。話す岡垣さん。求職するお母さん方の会話にも学びが多いといいます。

正解のない「子育て」。  
楽しみ方を教え、  
地域で見守り、  
幸せな親子を増やす。



活動の場は外にも、中学・高校で行う思春期教育の特別授業。いづれのおはなしは、15年ほど経って来ました。でもまだだけ感情を込めず、事実だけを伝えることも、自然と親への感謝や自己肯定感が芽生えるようです。授業を受けた子が助産師になるという嬉しい奇跡。夜め方や叱り方、成長に気付き力な、保護者にとっても見守り方を教える講座も始めました。目の前の子育てを良くみ、思春期以降の親子の関係を良くすることも意識しています。重要なのは、親が変われば子どもが変わるといふこと。子どもを愛するようになる。ではなく、親が支障になるが第一です。子育て中のママパパから将来親になる可能性を秘めた子どもたちまで、この生に関わる助産師の仕事は、次の世代へと継承されていきます。

貴重なおつづの日は、愛犬と海辺を散歩したり、温泉に行ったり、淡路島らしい時間を満喫。島育ちの2人の子もたちは、海に関わる仕事に就きました。乳児の頃から仕事に復帰しましたが、成人した今も仲良く関係する長さではなく、質が大切だとお母さん方にも伝えたいです。普段から気兼ねせず頼ってほしい。一時期預かりの理由は開かないのがポリシー。土日や年末年始の預かり、夜中メッセージ対応など、病院や市役所ではできなかったことを、今はできていて実感があふれています。困っている人も、頑張っていました。近所さん紹介、ランチ会に誘ったり、お話しする機会も増えたり、人付き合いも広がるようにお話ししています。自身を含め、淡路島は移住者の多いエリア。せっかく来てくれたのだから淡路島を好きになってほしいと、周辺のお店や企業の情報もどんどん紹介。地域で子育てを支えていきたいと目を離りません。

### HYOGO VISION 2050

誰も取り残されない社会

- みんなが生きやすい地域
- 安心して子育てできる社会
- 安心して長生きできる社会

すべての人が平等に機会を得られ、安心して生活できる社会です。年齢、性別、障がいの有無に関わらず、誰もが支え合い、参加できる環境を整え、一人ひとりが尊重される未来をめざします。







文化的価値を県内外に発信し、自然と組み合わせたアートや滞在型の取り組みで、雇用を生み出してほしい。30代

県として何が強みなのか、外からは分かりにくい。40代

挑戦したい人ほど、外に出ていってしまう印象。30代

伝統的な建築物、人にやさしい地域性、そして、おしゃれな感覚。40代

山・海・町を、同時に感じられる瞬間があります。神奈川県出身の私には、とても魅力的な風景です。30代

港のにおいと、海沿いの雰囲気、兵庫を感じる。40代

名産も名物も、何でもあるところ。30代

異なる文化を持った五つの地域が集まっていて、さまざまな感性を持つ人に出会えるところ。30代

南部・中部・北部と、それぞれに異なる文化や風俗、自然に触れたとき。40代

帰りたくなる場所。20代

車の運転マナーが、全体的に悪いと感じます。変わってほしいです。40代

どの駅を降りても同じ空気になるのではなく、それぞれの違いが残っていてほしいと思います。30代

大阪ほど混雑しておらず、梅田から帰ってくると、ほっとする。そんな距離感に兵庫らしさを感じます。20代

都会すぎず、田舎すぎない暮らし。20代

人口が減っていく中でも、東京から移住したくなる県であってほしいです。40代

都市の民と村の民が行き来しあい交流することで、あえてローカルで完結できる地域になればよいかと思います。60代

失敗を怖がらずに挑戦できる空気。50代

レトロと新しさが、無理なく混ざっている街並み。40代

阪神・淡路大震災を経験した人が多く、助け合いの精神や、不屈の気持ちを持った人が多いと感じる。50代

県の「広さ」が生み出す景色の多様性。60代

それぞれの場所が、それぞれの盛り上がり方をしている。そんな兵庫が素敵だと思います。30代

あなたの声も聞かせてください



ひょうごの日常から、聞こえてきた言葉。



## ひょうごビジョンって何？

ひょうごビジョン2050は、“これからの兵庫の暮らしをどう良くしていくか”を県民みんなで考えるための未来の設計図です。

その全体像や考え方を、WEBで紹介しています。

[詳しくはWEBへ](#)

# HYOGO VISION 2050



兵庫県 企画部 計画課

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号  
TEL 078-341-7711(代表)

ひょうごビジョン 2050 <https://hyogo-vision.com/>

ひょうごビジョン2050

検索

